

**資料紹介『北越雪譜』**

『北越雪譜』は、越後魚沼郡塩沢の縮(ちぢみ)商鈴木牧之が著した随筆です。豪雪地帯の気象・行事・産物・伝説などが巧みな挿絵とともに記されています。豪雪地帯住民の生活の哀歓を描いた最初の刊本として評判になりました。右の写真は、大雪の際に「こすき」(ブナを材料とした一枚板の雪かき道具)で除雪している様子です。

現在、文書館月替展示「屏風の下張りタイムカプセル - 寄合所の資料からよむ城下の暮らし -」で展示されています。

▲坪田仁兵衛家文書(当館寄託) C0005-00420



**講座・実習案内**

◎文書館専門講座

アーカイブス  
「ふくいの歴史資料を読み解く」第2回  
「中世若越の日本海海運」

日時：2月20日(土) 13:30~15:00  
講師：松浦 義則 氏(福井大学名誉教授)  
会場：県立図書館多目的ホール 参加無料  
定員：70名(要申込)

\*参加者には、文書館にて2月9日から自習用資料を配布します。

県内外には、中世の海運に関する資料が比較的に残されています。

講座では、三国・敦賀・小浜などを例に、海運の形成、遠隔地海運と近隣交易、湊でのさまざまな通行料の徴収、湊の指導者達などについて、資料をもとにその実像に迫り、中世の日本海海運の持った意味を考えます。

◎『古事記』を読む 第6回  
古事記と古代日本語の魅力

日時：3月5日(土) 13:30~15:00  
講師：カレル・フィアラ

(文書館副館長・福井県立大学名誉教授)  
会場：文書館研修室 定員：40名(要申込)

『新版古事記 現代語訳付き』中村啓信訳注  
(角川ソフィア文庫) を用意してください。

◎下張り資料のはがし方実習

内容：実習を通じて屏風・襖等の下張りの構造や、文書のはがし方の基本を体験的に学びます。

日時：3月9日(水) 13:30~15:30  
講師：平田正和氏

(株式会社工房レストア 代表取締役社長)  
会場：文書館研修室  
定員：20名(要申込、3月2日〆切)

**ちょっと昔の2月風景**



▲池田町水海田楽能舞  
昭和48年 66285



▲西浦小学校集団登校  
昭和46年 65086

\*電話・FAX・メールにてお申し込みください。  
電話(0776)33-8890 FAX(0776)33-8891  
E-mail [bunshokan@pref.fukui.lg.jp](mailto:bunshokan@pref.fukui.lg.jp)



■2月の開館日カレンダー■

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

は休館日です

■ご利用案内■

開館時間 午前9時から午後5時まで

■フレンドリーバスをご利用ください■

## ■今月の展示■

福井市街では、たび重なる大火や水害、空襲・地震によって町の自治や町人の暮らしを知ることのできる資料が驚くほど残されていません。

文書館では、20年前に屏風の下張りからまとまって見つかった福井城下「寄合所」の資料をこのたび整理し、公開することになりました。これらの資料からわかる200年前の人びとの暮らしを紹介します。

屏風の中から貴重資料が出てくるとは仰天じゃない。まさに歴史の宝石箱や〜。

福井県文書館月替展示 2016.1.29-4.10

# 屏風の下張り

- 寄合所の資料からよむ城下の暮らし

## タイムカプセル



下張りから、200年前の福井城下の資料が！

福井城下の「寄合所」は、城下の11町組の有力町人から選ばれた組頭が運営する町奉行所の下部組織であり、その合議「寄合」が開かれる場でもありました。

この資料は、組頭や町輪番庄屋が回覧し、受領印を押して、ふたたび寄合所に戻されたものが、屏風の下張りとしてリサイクルされたために、まとまって残ったものです。

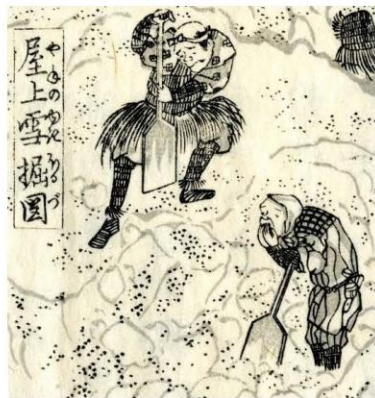
資料からは、それまで知ることのできなかつた200年前の寄合所の具体的な業務と役割を知ることができます。



城下寄合所のしごと

町奉行所からの触書や通達の町民への伝達、領内各所へ順送りに運ばれる通知の頻繁な発送、そして実にさまざまな人足の徴用などが、この資料からわかる寄合所のおもな業務です。

さらに、株仲間札の配付や冥加金の上納の仕方、参勤交代をめぐる儀礼や年中儀礼の打ち合わせ、緊急的な事態への協議などのために、寄合もたびたび開かれていました。



大雪の際には、雪かきへのべ2万人の雪かき人足が！  
鈴木牧之『北越雪譜』より